



かえるの声

平成28年 7月8日(金) 発行 No. 7

途別小学校の教育目標

あかるい子 (徳)

かしこい子 (知)

たくましい子 (体)

知・徳・体をバランスよく育てよう

心温まる交流となりました! ~JICA研修員来校~

6月24日(金), JICA研修員の学校訪問で、カメルーン、ウクライナ、ベトナム、ミャンマー、フィリピンの方々が訪問してくださいました。

途別太鼓を披露した後、名刺交換ゲームや母国語バスケット、カメルーンの遊びで交流したり、それぞれの国の紹介をしていただいたりしました。また、一緒に給食を食べたり、子どもたちが日本の文化(和太鼓、習字、折り紙、お手玉)について紹介したりもしました。子どもたちは、それぞれの国の文化について興味をもったり、外国の方とのコミュニケーションを楽しんだりしました。お互いに楽しく、とても心温まる交流となりました。



【それぞれの国について、興味深く紹介していただきました】



【実際に習字などを体験してもらいました】



【給食も一緒に食べました】



【名刺交換ゲームや、母国語バスケット、カメルーンの遊びなどでも交流しました】



【あっという間に時間が過ぎ、お別れの場面では、名残惜しくなりました】

能動的に学ぶ子ども～研究授業(中学年)兼研修講座(複式授業)～ 「見通し」「話し合い」「振り返り」

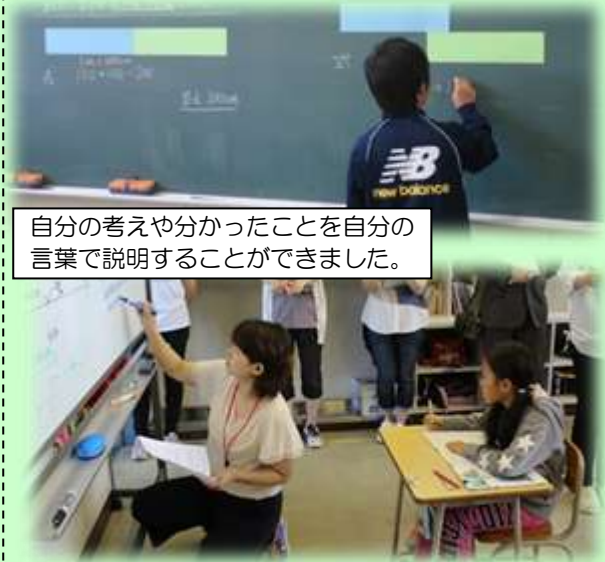


実物の「ものさし」から、テープ図をイメージしました。

6月29日(水)、中学年の校内研究授業「算数」をしました。研修センターの講座(複式授業)を兼ねて実施しました。

3年生は、重なりのあるものの全体の大きさを求める学習です。実物の「ものさし」やテープ図を使って「視覚化」を図りました。「重なっている部分」をどう処理したらよいかという思考の「焦点化」により、子どもたちは「見通し」をもってしっかりと考えることができました。また、ペアや全体で自分の考えをもとに「話し合う」活動を取り入れたことで、思考の「共有化」が図られ、より能動的な学習となりました。

4年生は、全体の大きさと違いに目を付けて、それぞれの大きさを求める学習です。思考の「焦点化」として、数直線をどのようにかいたら分かりやすいかがポイントでした。数直線を縦に並べるという方法により、「見通し」をもって考えることができました。また、一人学年のため、多様な考えにふれられるよう、教科書にある別の方法も、子どもが自分の言葉で説明しました。学習を「振り返り」、分かったことを自分の言葉でまとめるという活動にも取り組むことによって、より能動的な学習となりました。



自分の考えや分かったことを自分の言葉で説明することができました。

素敵な自転車置き場 設置 ありがとうございました!



札内地区及び途別第3公区から通っている子の多くは、朝、保護者に自転車とともに途別第3会館に送ってもらい、そこから集団で自転車登校していました。(雨天時は徒歩。)自転車を車で搬送する労力を軽減できるよう、この度、自転車置き場を第3会館の場所に設置しました。

途別公区長さんが町にお願いして、廃墟となったバス待合所をもらい受け、PTA役員や地域の方が移動してくださいました。盗難防止用に自転車を繋ぎとめる仕組みも作りました。そして、地域の島田利文さんが、抜けていた床を張り替え、ドアを付けて色を塗り、看板も付けてくださいました。素敵な自転車置き場となり、子どもたちも喜んでいきます。学校からお礼をさせていただきました。本当にどうもありがとうございました。